

## 門首挨拶

このたび、真宗大谷派第二十六代門首<sup>もんしゅ</sup>を継承させていただくことになりました  
おおたにちょうゆう  
大谷 暢裕と申します。

本日こうして、ご参拝の皆さま、そして世界の御同朋<sup>おんどうぼう</sup>の皆さまと共に、宗祖親鸞<sup>しゅうそしんらん</sup>  
しょうにん ごしんねい おんまえ  
聖人の御真影の御前におきまして、門首継承式を厳粛に執行することができまし  
たことは、誠に有り難いことであり、深い感動をもって受けとめております。

私は、1歳の時に父親である大谷 暢 慶<sup>ちょうきやう</sup>の南米開教に伴い家族と共にブラジルに  
渡りました。そこでご門徒<sup>もんと</sup>の皆さまが、一日一日を生きることが厳しい困苦<sup>こんく</sup>の中  
で、親鸞聖人のみ教を<sup>まも</sup>を護り伝えようと、報恩講<sup>ほうおんこう</sup>をはじめとする御仏事を丁寧<sup>つと</sup>に勤  
め、聞法<sup>もんぼう</sup>されるお姿を見て育ちました。幾世代をも貫いて、今日<sup>こんにち</sup>の私にまで相続されて  
きたみ教にふれ、今、先達<sup>せんだつ</sup>の歩んだ道を辿り、ここに立たせていただいていることは、誠  
に筆舌に尽くしがたい不思議な思いがいたします。本当に多くの方々との出会いとお支えの  
お陰で、今日までの歩みを進めることができました。ここに、ご縁をいただいた多くの方々  
に厚く御礼申し上げます。

おも  
憶うに、今の時代ほど、国家や民族、言語や習慣など、あらゆる差異<sup>ちがい</sup>を超えて、生きと  
し生けるものが互いに響き合う世界が求められているときはありません。けっして誰一人  
見捨てることのない阿弥陀仏<sup>あみだぶつ</sup>の本願<sup>ほんがん</sup>の教を、私<sup>わたくし</sup>自身が聞思<sup>もんし</sup>し、その慶<sup>よろこ</sup>びを世界の人々  
に広く丁寧にお伝えしていくことが、互いを真に尊び、信頼し合える社会へと繋がっていく  
ものと信じています。

今後も大谷 暢 顯<sup>ちょうけん</sup>前門の果たされた大切なお役目を引き継ぎ、世界中の人々に「南無  
あみだぶつ  
阿弥陀仏」を届け、「四海の内みな兄弟<sup>しがい うち きやうだい</sup>とするなり」の同朋<sup>どうぼう</sup>の輪の広がり<sup>なむ</sup>に微力を尽くし  
てまいりたいと思います。皆さまのご支援を心から願ひいたし、共に聞法精進<sup>もんぼうしやうじん</sup>いただける  
よう念じ申し上げます。

大谷 暢裕 (釋 修如)